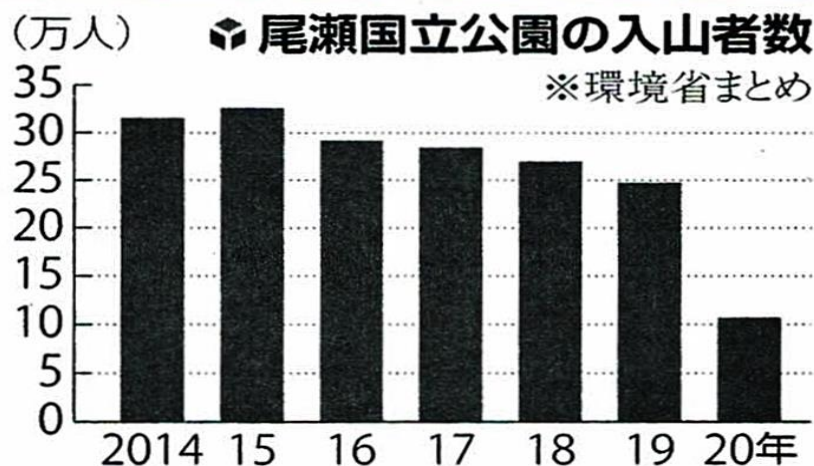


尾瀬入山者56.8%減

昨年「感染収束したら訪れて」

21.2.23 読売群馬版



群馬、福島など4県にまたがる尾瀬国立公園の2020年の入山者数は、前年比56.8%減の10万6922人で、統計が残る1989年以降最少となったことが、環境省関東地方環境事務所のまとめでわかった。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、5～6月に入山口の一部が閉鎖されたことも影響した。

同事務所によると、5～6月はミズバショウが見頃となるが、福島県側の入山口や園内の山小屋が閉鎖された影響で、入山者は前年比約6万8000人減の約5700人にとどまった。ニッコウキスゲが見頃となる7月は、一部で入山口の閉鎖が解除され、1万6748人が訪れたが、前年

より約3万7000人少なかった。

8～10月は回復傾向も見られたが、シーズンを通して見ると、最盛期だった1996年の64万人から6分の1ほどに落ち込み、減少は5年連続となった。

同事務所は「ミズバショウ、ニッコウキスゲは例年以上にきれいに咲いていたので残念。感染拡大が収束したら、多くの人が訪れてほしい」としている。

入山者数は5～10月、入山口にカウンスターを設置して計測した。